

教育学 専攻 領域（博士前期）

試験科目：第 外国語（ 英語 ） / 専門科目（ ）

- ①日本の教育が哲学としても実践としても西洋の教育とは異なるという点を踏まえ、その含意を適切に要約できていること。
- ②構文、本出題では、挿入句や修飾関係を特に適切に踏まえて、本文の文脈に則った訳語を的確に選び、正確かつ文脈に応じて訳していること。
- ③教育学におけるmodernityについて、教育の制度や実践をめぐる文化的背景を踏まえて、本文から1カ所以上引用、言及してその意義および課題が適切に論じられていること。

教育学 専攻 領域（博士前期）

試験科目：第 外国語（日本語） / 専門科目（ ）

問1

問2

問3

教育学 専攻 領域（博士前期）

試験科目：第 外国語（ ） / 専門科目（ **教育学共通問題** ）

教育学の諸領域に関する研究課題について、従前の諸研究による知見をもとに、提示された文献を深く読解、考察し、論理的かつ批判的に表現する力を評価します。併せて、提示された文献の研究テーマをもとに、研究のデザイン（どのような課題をたて、何を対象とし、どのような方法をとるかについての計画）を構想できる力についても評価します。

教育学 専攻 領域（博士前期）

試験科目：第 外国語（ ） / 専門科目（ 教育方法学 ）

教育方法学に関する5つの学術用語（ATI、マスタリーラーニング、範例学習、発達の最近接領域、有意味受容学習）から2つを選び、用語の意味、さらに提唱者や与えた影響、学術史上の意義や位置づけ等について、端的かつ正確に述べていることが要件となる。

教育学 専攻 領域（博士前期）

試験科目：第 外国語（ ） / 専門科目（ 学校教育学 ）

（1）教育と想像性のテーマについて、たとえばジョン・デューイやマキシン・グリーンのアートや想像力の理論を用いて議論が展開されていること。なぜいま学校教育において想像性が問われ、重視されているのかについて、自分の考えが適切に論じられていること。

（2）教育と主体性について、近年の教育学や教育実践において議論されている内容を適切に理解して論じられていること。たとえば、ガート・ビースタの「主体化」「資格化」「社会化」の議論や、日本の学校教育、カリキュラムにおける「主体性」の議論について理解していること。そのうえで、なぜいま学校教育において「主体性」が問われているのかについて、自ら問いを立てて考察がなされていること。

教育学 専攻 領域（博士前期）

試験科目：第 外国語（ ） / 専門科目（ 教育社会学 ）

(1) 保護者の就労と子どもの教育の関わりについて具体的な今日的課題を取り上げ、それを社会的な視点に立ち、論理的、分析的に記述がなされていること。

(2) 学校外教育を研究する際に、学校教育と異なり、どのような可能性と困難があるかを研究対象への知識としてきちんと提示した上で、それを研究として進めていく上での可能性と困難が教育社会学上の研究として記述がなされていること。

教育学 専攻 領域（博士前期）

試験科目：第 外国語（ ） / 専門科目（国際教育開発学）

小論文は、主張を明確に示し、それを根拠や事例、論理的な説明によって説得的に支えることが求められる。